

郡山市困難な問題を抱える女性への支援についてのアンケート結果

困難な問題を抱える女性とは、困難な問題を抱える女性への支援に関する法律（以下、女性支援新法という。）において、性的な被害、家庭の状況、地域社会との関係性その他の様々な事情により日常生活又は社会生活を円滑に営む上で困難な問題を抱える女性とおそれのある女性と定義されている。

郡山市では、困難な問題を抱える女性への支援に関する基本的な方針や施策の実施内容に関する事項等を定める基本計画を策定する予定であり、市民の意識や認知度、郡山市の課題を把握し、基本計画策定の参考とするため、市民アンケートを実施した。

【調査概要】

調査期間	2024年9月20日（金）～12月31日（火）
調査方法	市公式HPのオンライン申請 二コニコこども館、中央図書館、各種イベント会場等にアンケート回収箱を設置
回答者数	549人（男性194人 女性352人 不明3人）
備考	・オンライン回答467人 ・紙回答82人

【分析】

《回答者内訳》

年代	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～	合計
男性	17	17	34	49	32	45	194
女性	37	72	89	82	54	18	352
不明	1	0	1	0	1	0	3
合計	55	89	124	131	87	63	549

《問1 困難な問題を抱える女性への支援に関する法律（以下、「女性支援新法」という。）を聞いたことがありますか。》

78.7%が「聞いたことがない」と回答しており、認知度が低い。

《問3 女性支援新法及び困難な問題を抱える女性への支援についてどの程度関心がありますか。》

83.0%が「関心がある」又は「やや関心がある」と回答しており、関心の高さがうかがえる。

【考察】

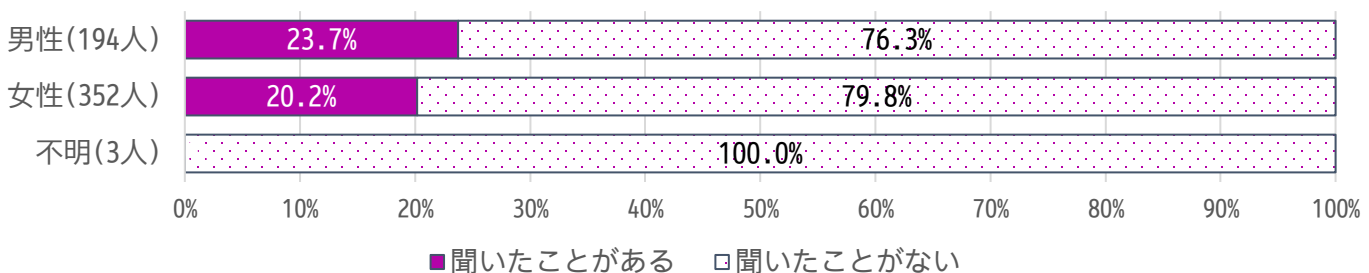
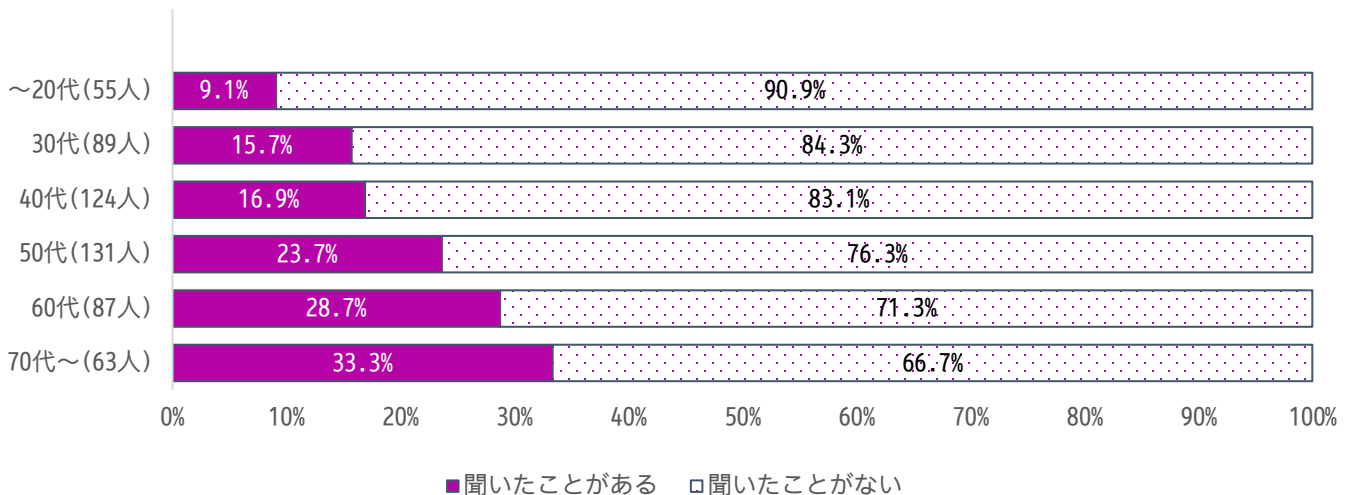
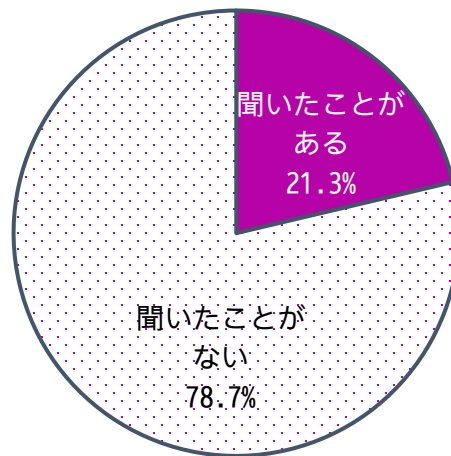
- ・女性支援新法及び困難な問題を抱える女性への支援について、認知度は低い一方で、関心は高いことから、積極的な周知を図る必要があると考えられる。
- ・困難な問題を抱える女性は一定数おり、支援に対する潜在的なニーズがあることが確認されたため、相談支援体制の充実及び強化を図る必要があると考えられる。
- ・女性の抱える困難な問題として、「経済問題」「こころの病気・不調」「体の病気・けが」が多い調査結果となったため、これらの問題に対応できる施策が必要である。

※比率はすべて百分率（％）で表示し、表示単位未満を四捨五入し、単位未満の数値を調整した。
そのため、個々の比率の合計が100%にならない場合がある。
※自由回答は明らかな誤字・脱字の修正を除き、原文のまま掲載

【第1章 女性支援新法について】

問1 困難な問題を抱える女性への支援に関する法律（以下、「女性支援新法」という。）を聞いたことがありますか。【1つ選択】

回答者：549人

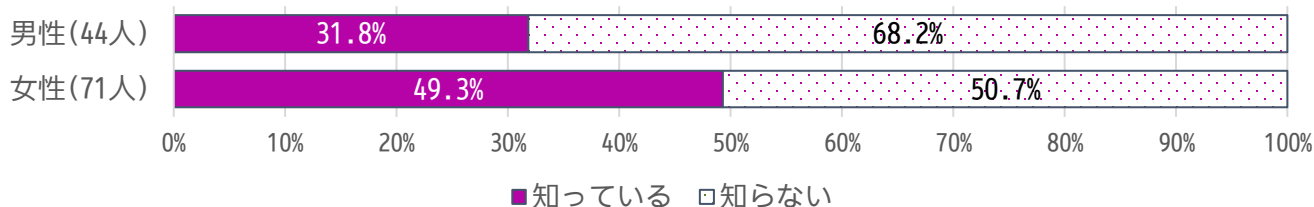
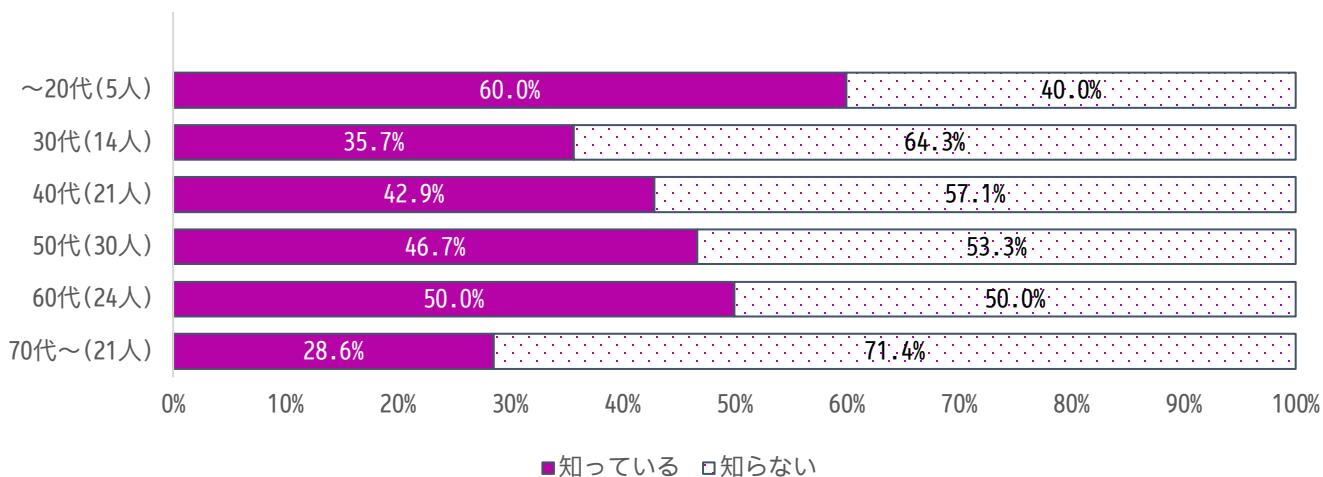
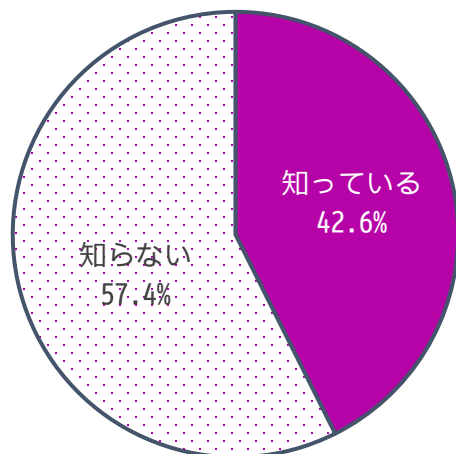


女性支援新法の認知度について、「聞いたことがある」と答えた割合は全体の21.3%と低い。年齢別では、年齢が高くなるにつれて「聞いたことがある」と答えた割合が増加する傾向がみられた。

問2 《問1》で「聞いたことがある」を選択した方へお伺いします。

女性支援新法の内容を知っていますか。【1つ選択】

回答者：115人（未回答者2人）

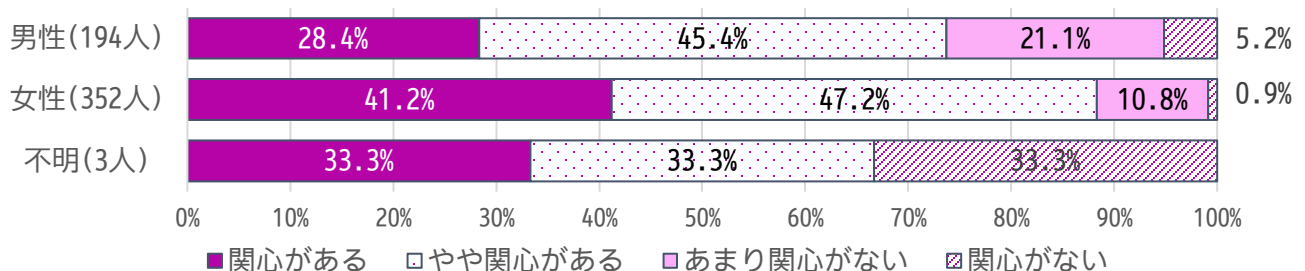
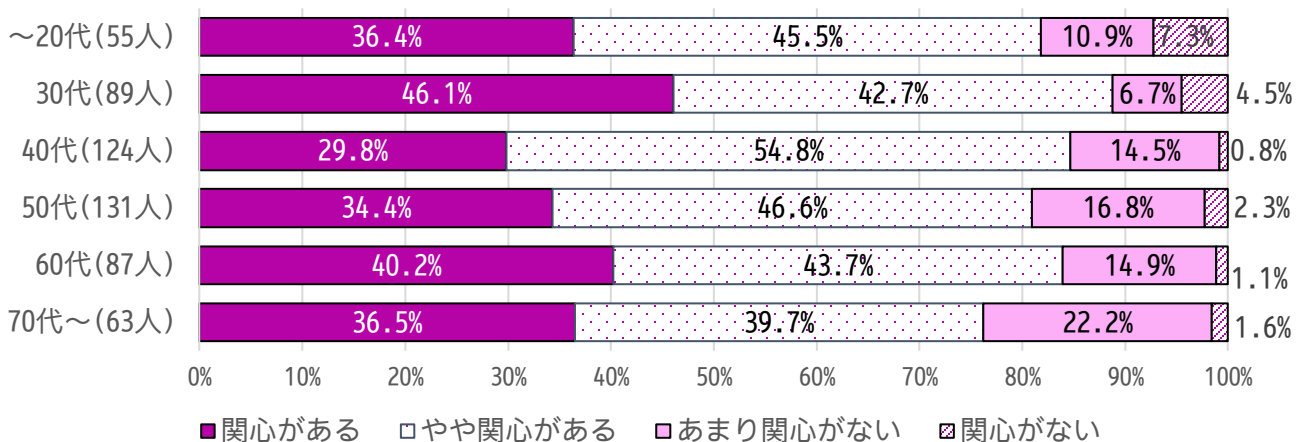
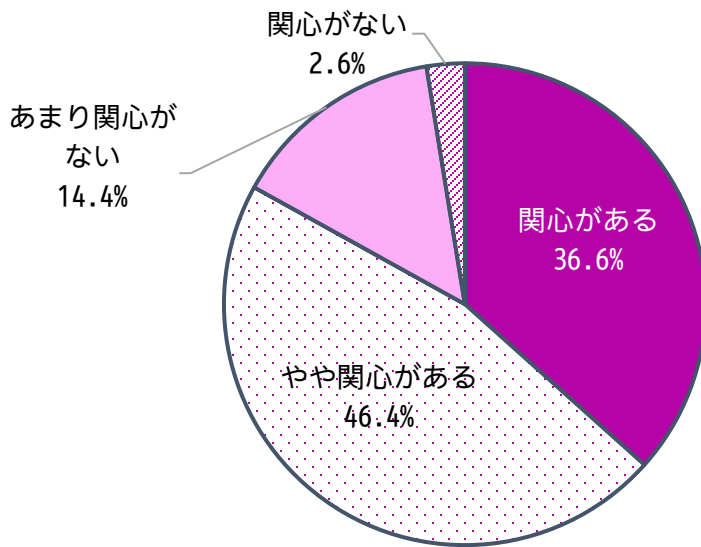


女性支援新法を聞いたことがあると回答した人のうち、内容について「知っている」と答えた割合は42.6%であり、女性は半数近くが「知っている」と回答した。

女性支援新法とその内容について、さらなる周知が必要である。

問3 女性支援新法及び困難な問題を抱える女性（※性的な被害、家庭の状況、地域社会との関係性その他の様々な事情により日常生活又は社会生活を円滑に営む上で困難な問題を抱える女性とそのおそれのある女性。）への支援についてどの程度関心がありますか。【1つ選択】

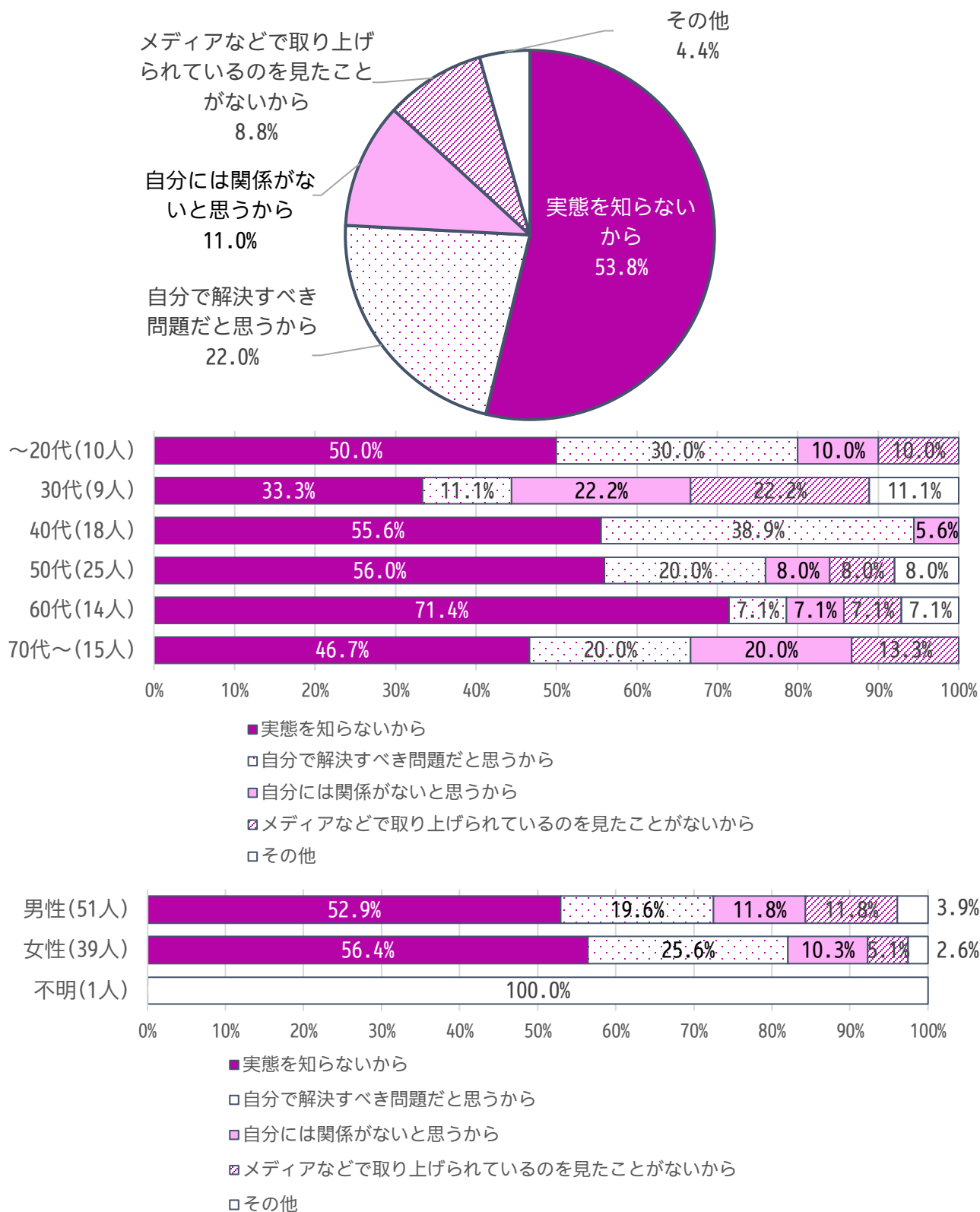
回答者：549人



関心度については、「関心がある」又は「やや関心がある」と回答した割合は全体の83.0%と高く、全体的な関心の高さがうかがえる。男女別では、男性73.8%に比べて女性88.4%と女性の関心がより高い。

問4 《問3》で「あまり関心がない」「関心がない」を選択した方へお伺いします。その理由は何ですか。【1つ選択】

回答者：91人（未回答2人）



関心がない理由について、「実態を知らないから」と答えた割合が53.8%と最も多く、半数を超えていることから、困難な問題の具体的な内容や事例について周知を図る必要があると考えられる。次いで、「自分で解決すべき問題だと思うから」と答えた割合が22.0%と全体の約1/4であることから、支援の必要性や効果についても周知が必要である。

「その他」の自由回答

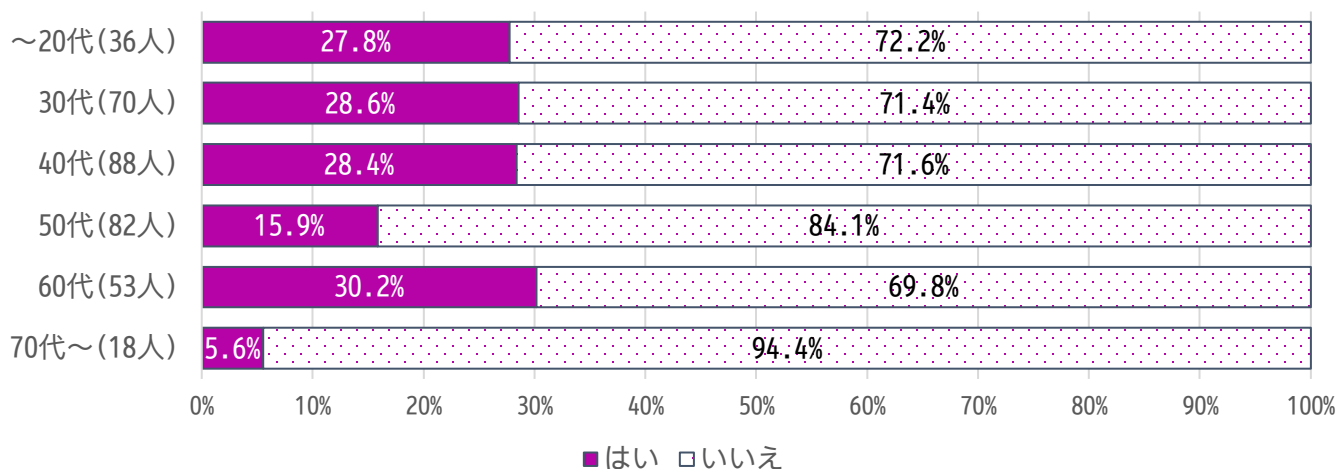
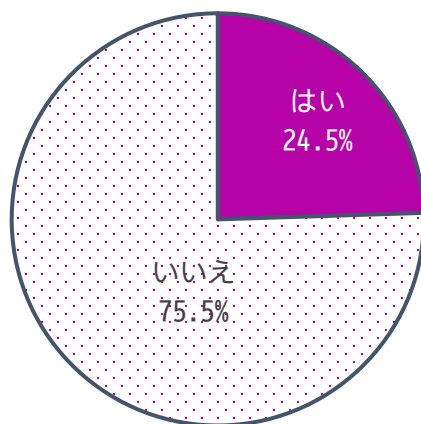
問4：《問3》で「あまり関心がない」「関心がない」を選択した方へお伺いします。その理由は何ですか。	年代	性別	備考
一人暮らしの男性も大変なので	30代	男性	
男性は物凄く優遇されているなら、具体的に何のどこが女性より優遇されているか知りたい	60代	男性	
男性でも同様の事が有りますが、それは無視ですか？	50代	男性	
期待していないから	50代	女性	

【第2章 郡山市の現状について】

問5 女性のみ回答をお願いします。それ以外の方は問7へお進みください。

あなたはご自身を困難な問題を抱える女性だと思いますか。【1つ選択】

回答者：347人（未回答者5人）

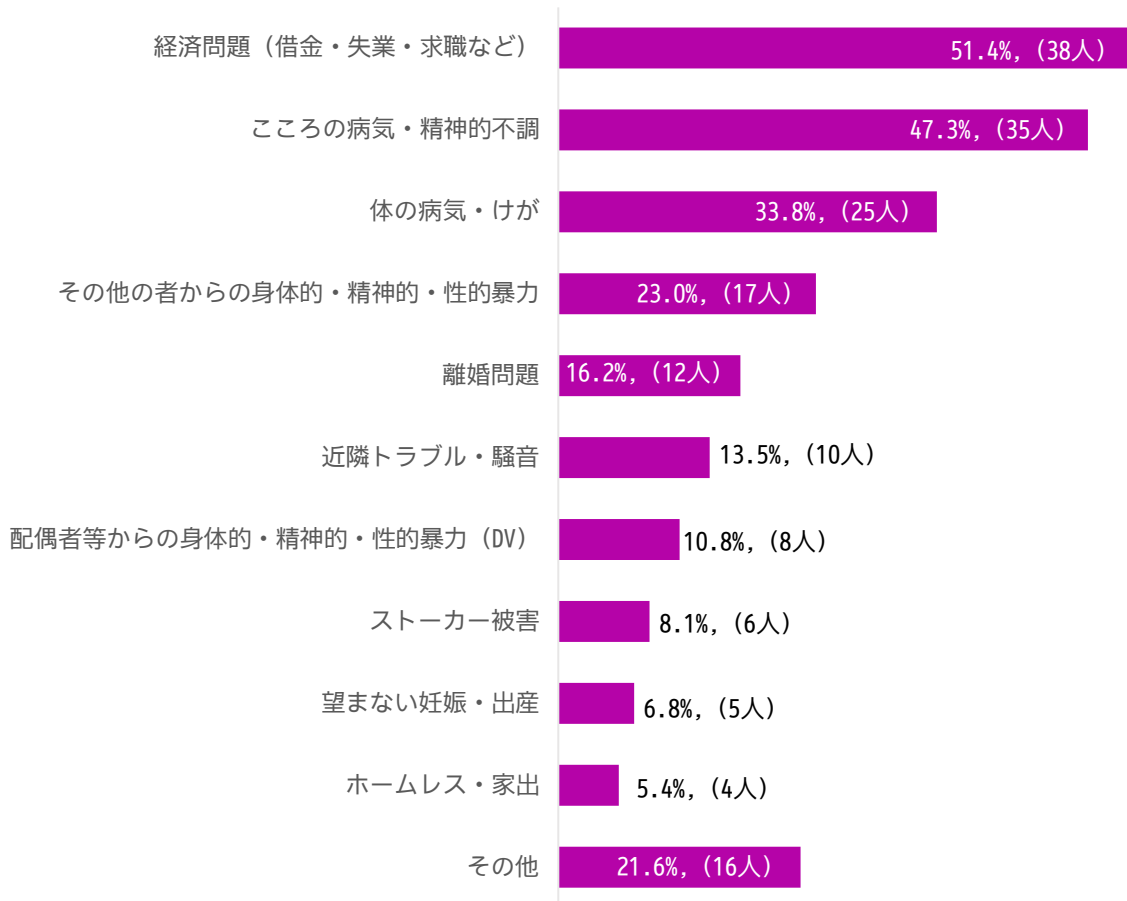


回答者自身が困難な問題を抱える女性だと思うと回答した人の割合が全体の24.5であり、どの世代にも困難な問題を抱える女性は一定数おり、支援ニーズを有していることがうかがえる。

相談支援体制を強化するとともに、支援が必要な人に情報が行き届くようあらゆる手段で周知していくことが必要である。

問6 《問5》で「はい」を選択した方へお伺いします。どのような問題を抱えていますか。【複数選択】

回答者数：81人（未回答者4人）



回答者自身の困難な問題の内容について、「経済問題」と回答した割合が51.4%、「こころの病気・精神的不調」と回答した割合が47.3%、「体の病気・けが」と回答した割合が33.8%と、経済的問題と健康面に不安がある人が多いことが示唆される。

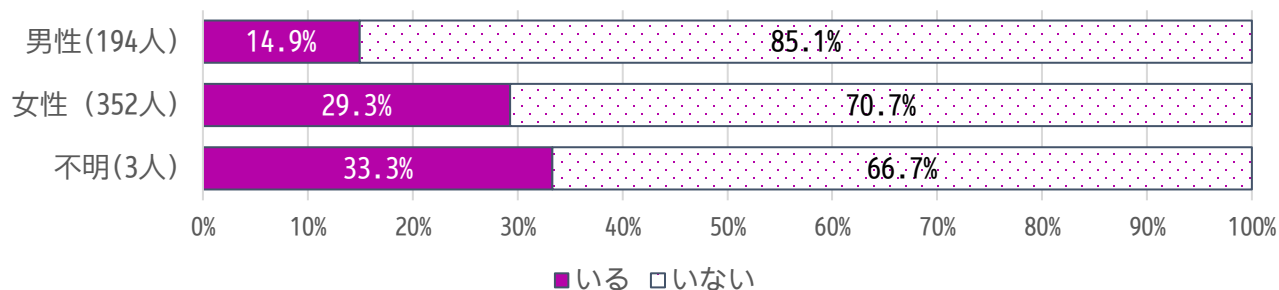
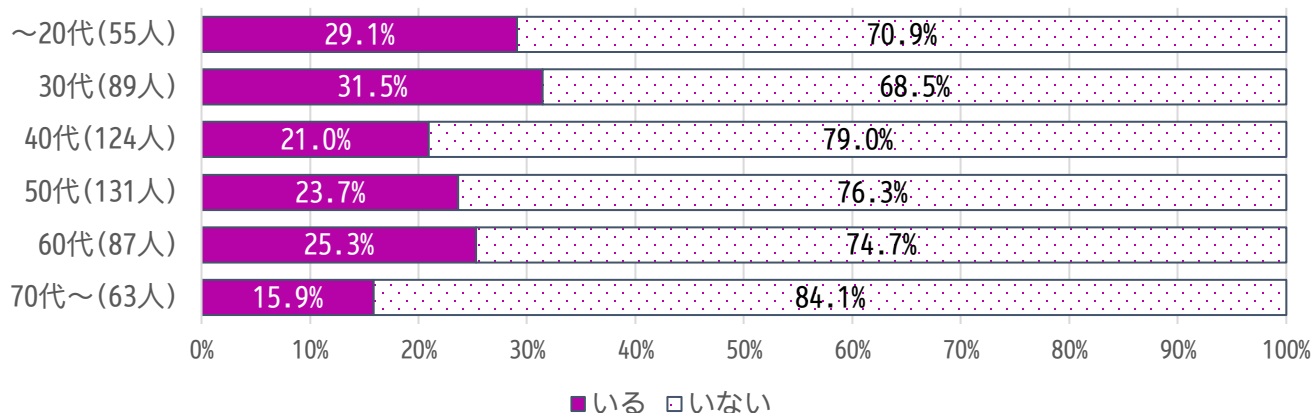
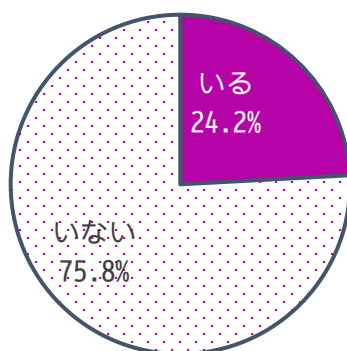
女性が抱える問題は複雑化、多様化、複合化しやすい傾向にあるとされていることから、様々な問題に対応できる相談体制を強化していく必要がある。

「その他」の自由回答

問6：《問5》で「はい」を選択した方へお伺いします。どのような問題を抱えていますか。	年代	性別	備考
夫がアルコール依存性だが認めようとしないので治療がすすまない。	60代	女性	
心と体がすぐれない。今は仕事出来ているが仕事と育児の両立が難しい。育児と未来への不安がある。	40代	女性	
配偶者や自身の死後の財産の管理（休耕田、山林など）一人暮らしの実家の親の問題	60代	女性	
社会人である息子と関係をうまく保てていない	60代	女性	
家族の問題	60代	女性	
以前は問題を抱えていた	50代	女性	
適応障害で職場からの理解が得られない	40代	女性	
未婚で両親が他界し兄弟は海外在住、日常の話し相手がほとんどいない。	40代	女性	
子どもが小学校でいじめられ、登校させる不安が大きい	40代	女性	
ひとり親	30代	女性	
介護問題	50代	女性	
復職がうまく行かずに子どもの成長待ち。求職活動すれば保育園の確保を聞かれ、保育園の確保をしに行けば仕事の確保を聞かれる。子どもの体調に合わせて休めば角が立つ。男性が同じような状況を経験できる社会にならないと、この問題は解決しないのではないかと思う。社内託児所の増設などがないと土日や夜間勤務を求められても厳しい。	30代	女性	
家族の介護	20代以下	女性	
同居及び離れて暮らす両親の支援や介護について	60代	女性	
虚偽による名誉棄損	60代	女性	
学校.子供のこと.家.お金	30代	女性	

問7 身近に困難な問題を抱える女性はいますか。【1つ選択】

回答者数：549人

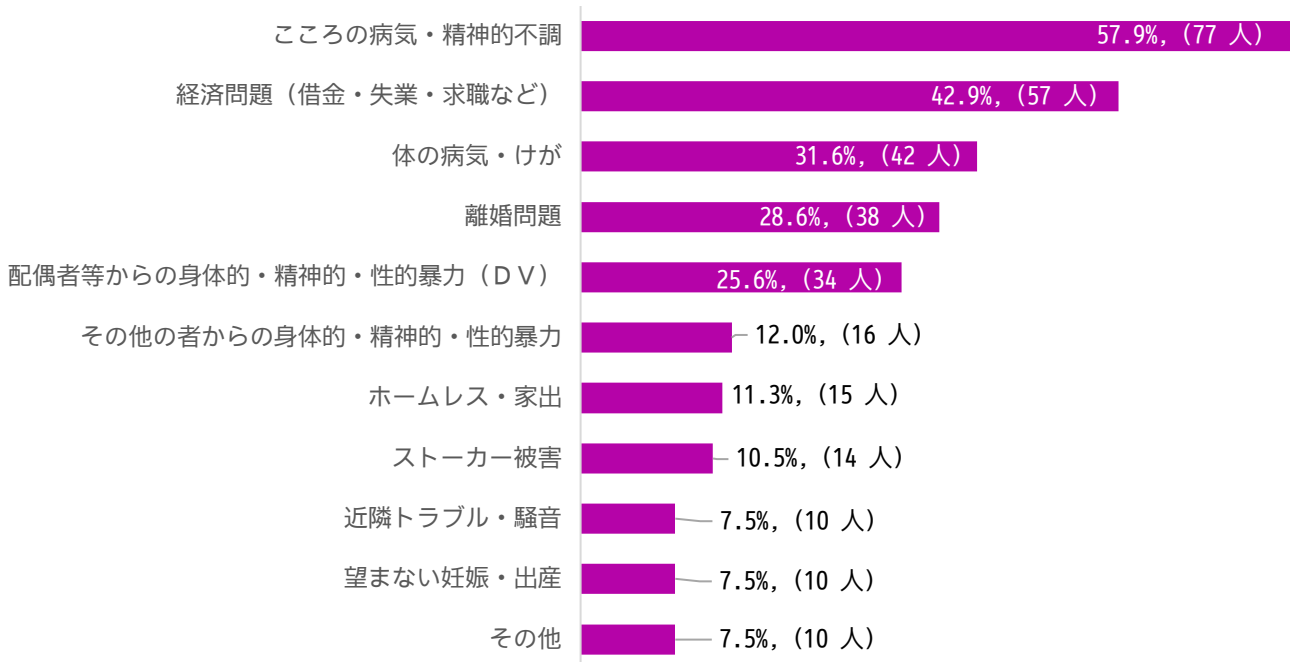


回答者の身近に困難な問題を抱える女性がいるかについては、「いる」と回答した割合が24.2%と、回答者自身が困難な問題を抱える女性であることを尋ねた問5（「はい」が24.5%）とほぼ同じ割合だった。

問8 《問7》で「いる」を選択した方は、その女性はどのような問題を抱えていますか。また、《問7》で「いない」を選択した方は、どのようなことが女性にとって困難な問題だと思いますか。【複数選択】

回答者数：549人

《問7》で「いる」を選択した方（133人）

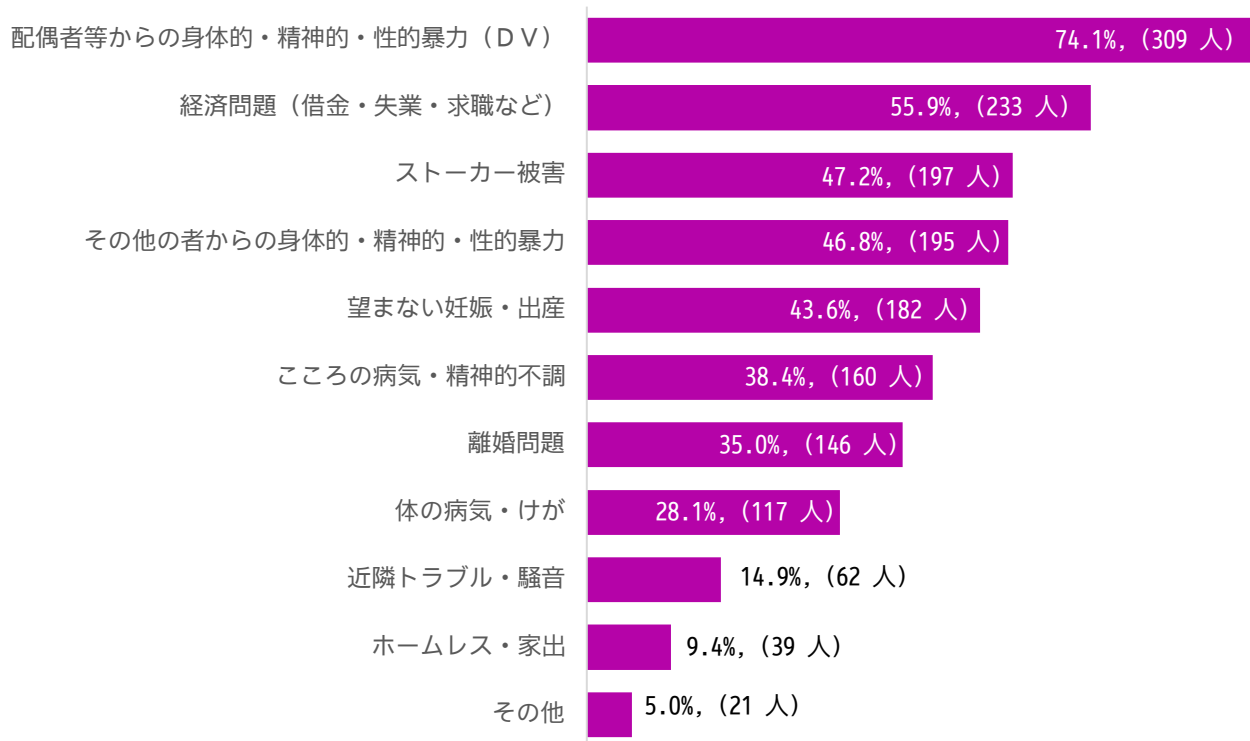


《問7》で「いる」を選択した方について、「こころの病気・精神的不調」が57.9%と最も多く、次いで、「経済問題」42.9%、「体の病気・けが」31.6%となっており、上位3つは問6（回答者自身）と同じ問題であった。

「その他」の自由回答

問8－①：《問7》で「いる」を選択した方は、その女性はどうな問題を抱えていますか。	年代	性別	備考
子供の引きこもり	60代	男性	
夫婦別居、夫に愛人	70代以上	男性	
離婚が成立したにもかかわらず別れた配偶者を恐れている	60代	女性	
配偶者の看病	50代	女性	
若年女性の避妊	40代	女性	
認知症	60代	女性	
搾取・詐欺（識字、無害なことによる。専門職による行為等）	60代	女性	
性産業に斡旋されてしまう	70代以上	女性	
ひきこもりの成人した子供がいる	70代以上	女性	
学校.子供のこと	30代	女性	

《問7》で「いない」を選択した方（417人）



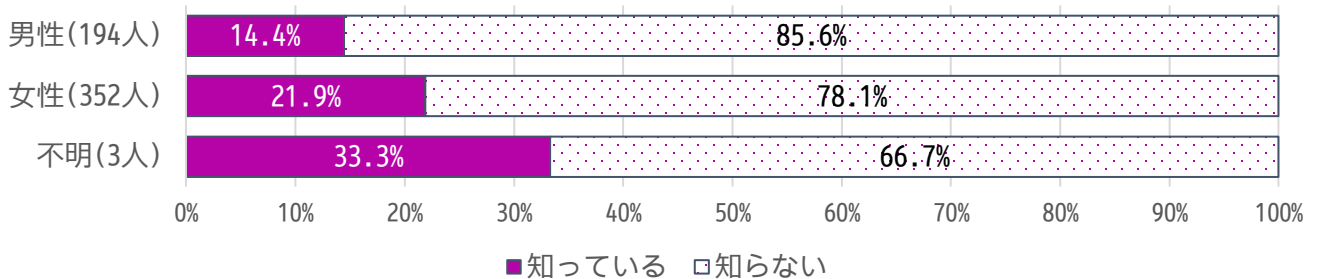
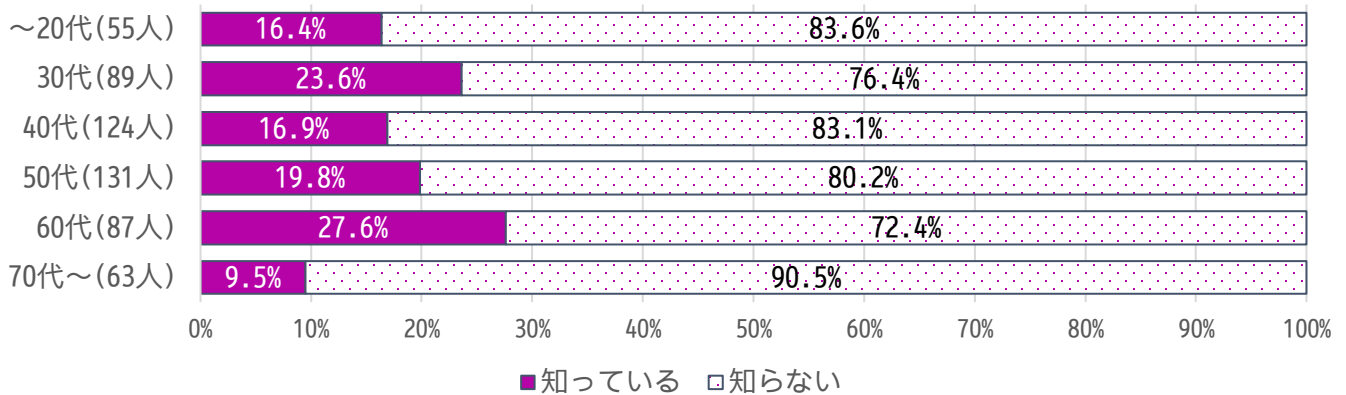
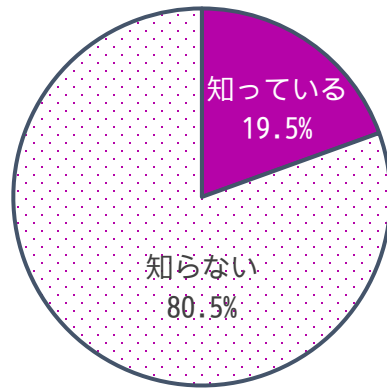
《問7》で「いない」を選択した方について、何が困難な問題だと思うかについては、「配偶者等からの身体的・精神的・性的暴力（DV）（74.1%）」が最も多く、次いで「経済問題（55.9%）」、「ストーカー被害（47.2%）」となっている。

「その他」の自由回答

問8-②：《問7》で「いない」を選択した方は、どのようなことが女性にとって困難な問題だと思いますか。	年代	性別	備考
ほぼ女性に限らない	40代	男性	
女性の回答だから	40代	男性	
日本は男女平等がまだまだ軽視されていて、国が率先して取り組まなければならない	70代以上	男性	
L G B T、子ども食堂、貧困家庭、男女別姓、男女平等	60代	男性	
男女とも他人事には干渉しない主義なので聞かない	70代以上	男性	
介護・育児ワンオペ	50代	女性	
上記選択肢は女性だけではなく男性にも当てはまる。	40代	男性	
家事や育児が女性に偏りがちな風習	40代	女性	
おひとり様暮らし	50代	女性	
身体的特に精神的障害があり（グレーゾーン等）社会福祉を受けていない様な人	50代	女性	
子供が病気等で仕事を休まなくてはいけない時の職場の理解がないこと。	30代	男性	
私たちの年齢では親の介護の問題です。	60代	女性	
賃金格差、雇用の不安定、非正規雇用が多い、働きながらの子育て・介護など	40代	女性	

問9 郡山市の困難な問題を抱える女性の相談窓口はこども家庭課（ニコニコこども館3階）であることを知っていますか。【1つ選択】

回答者数：549人

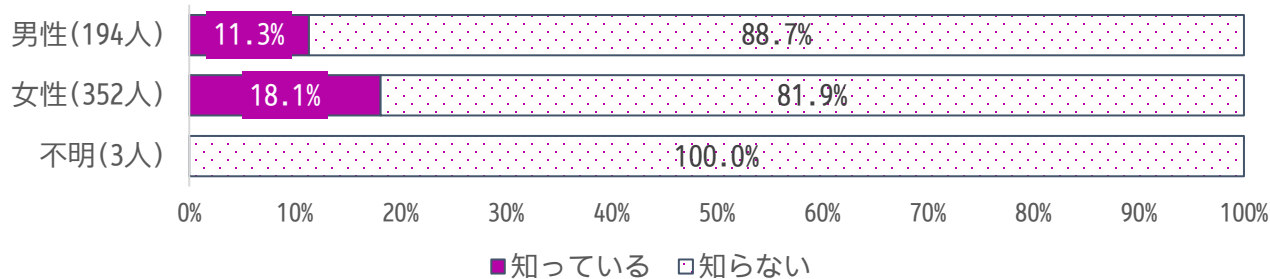
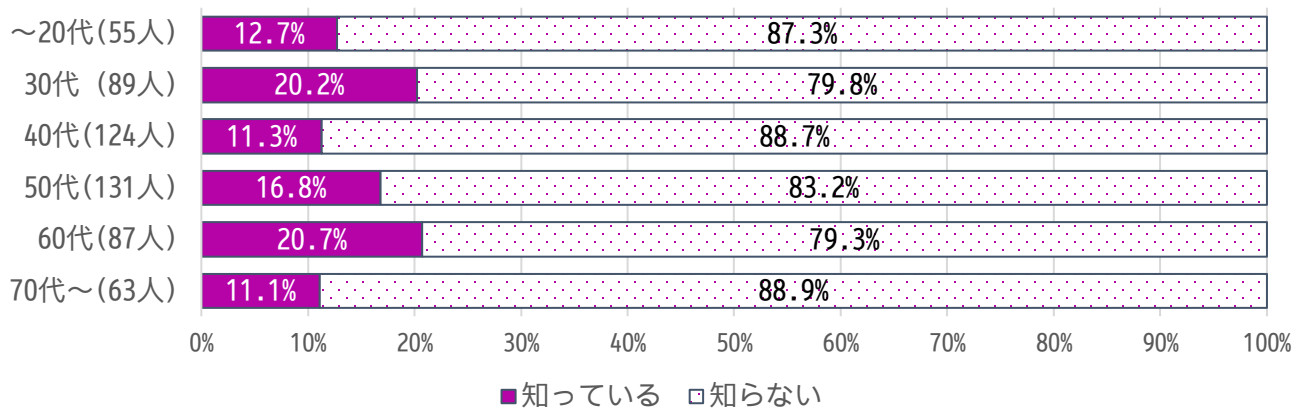
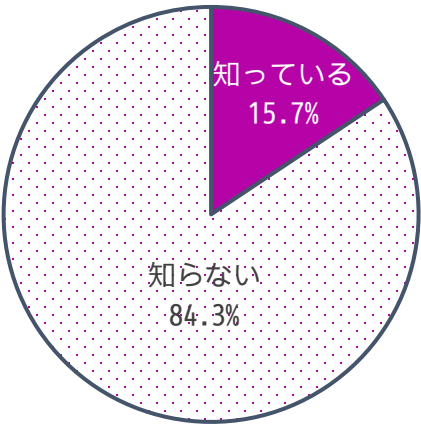


困難な問題を抱える女性の相談窓口の認知度について、一定数は「知っている（19.5%）」と回答したが、「知らない（80.5%）」と回答した割合の方が多かった。

さらなる周知が必要である。

問10 郡山市の場合、DV被害等女性のシェルター保護の相談窓口はこども家庭課であることを知っていますか。【1つ選択】

回答者数：549人

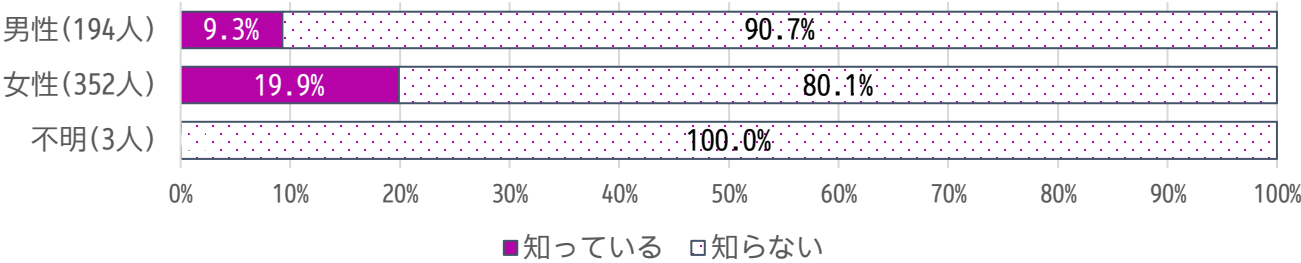
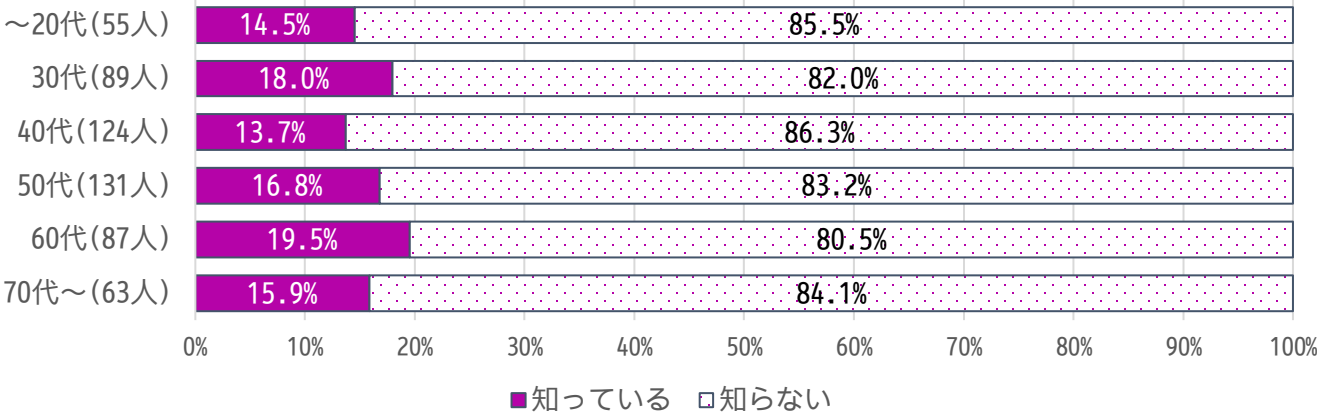
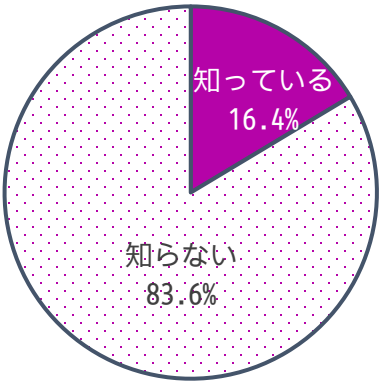


シェルター保護の相談窓口の認知度について、一定数は「知っている（15.7%）」と回答したが、「知らない（84.3%）」と回答した割合の方が多かった。

さらなる周知が必要である。

問11 郡山市ではこども家庭課に女性相談支援員（困難な問題を抱える女性の発見に努め、その立場に立って相談に応じ、専門的技術に基づいて必要な援助を行う者）を配置し来所・電話相談業務に当たっていることを知っていますか。【1つ選択】

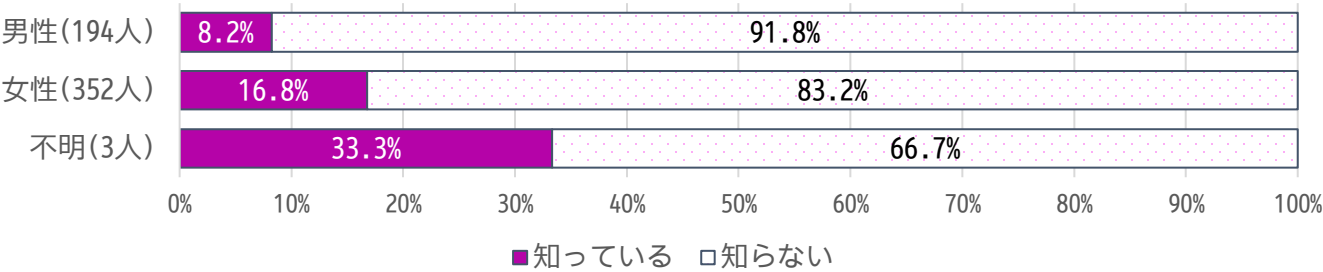
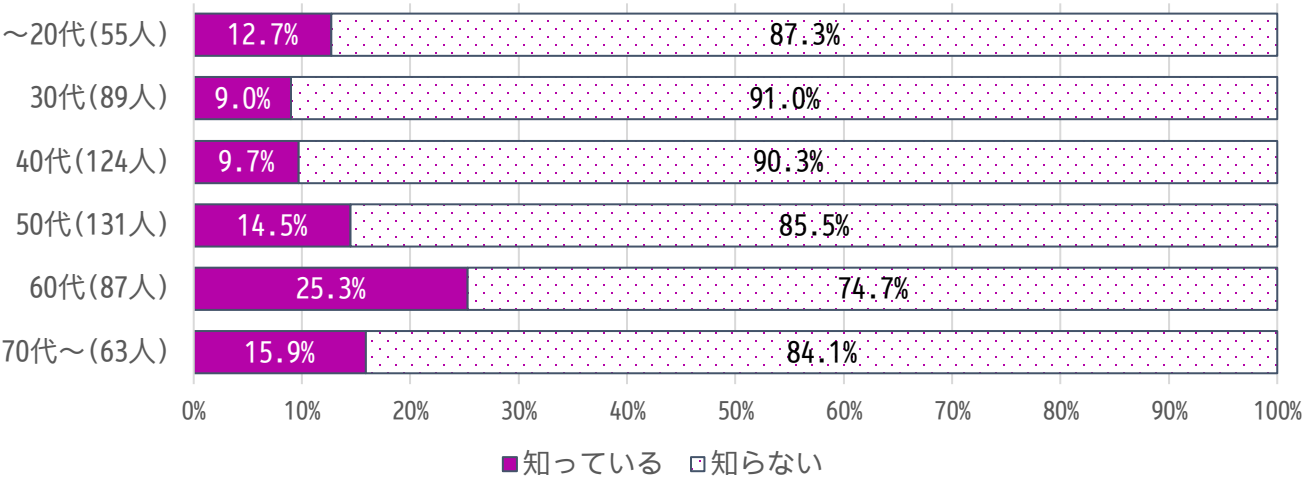
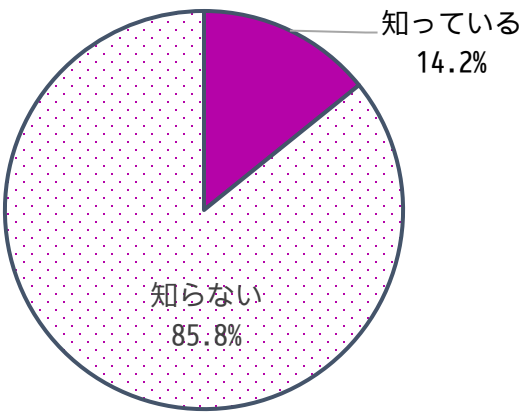
回答者数：549人



女性相談支援員の認知度について、一定数は「知っている（16.4%）」と回答したが、「知らない（83.6%）」と回答した割合の方が多かった。
さらなる周知が必要である。

問12 女性支援新法では、民間団体との協働による支援が求められていますが、郡山市内で女性支援を行っている民間団体があることを知っていますか。【1つ選択】

回答者数：549人

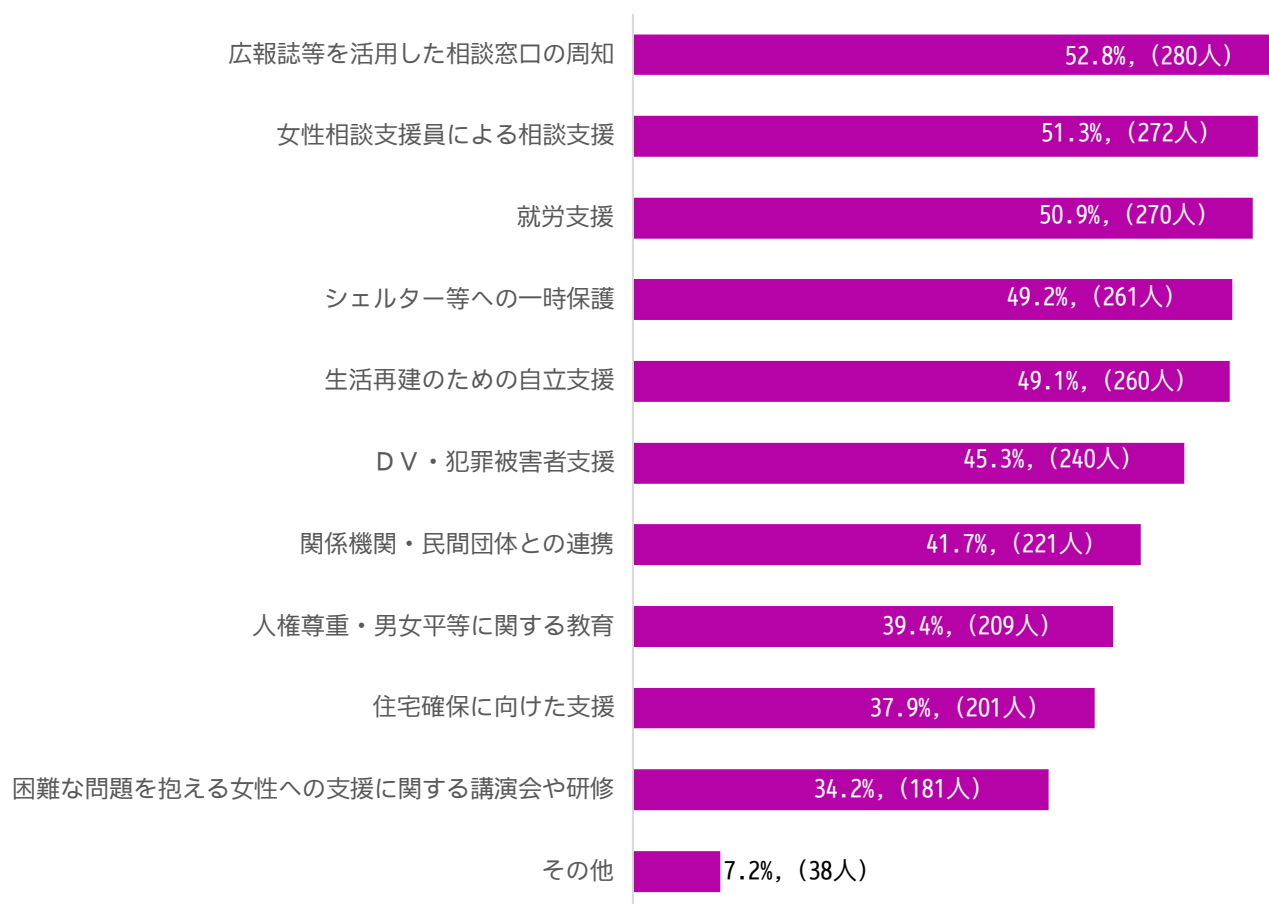


郡山市内で女性支援を行っている民間団体の認知度について、「知っている」と回答した割合は14.2%であった。

【第3章 郡山市のこれからの取組について】

問13 困難な問題を抱える女性への支援のために、郡山市においてどのような施策が有効だと思いますか。【複数選択】

回答者数：549人



郡山市において有効だと思われる施策について、「広報誌等を活用した相談窓口の周知」と回答した割合が52.8%と最も高く、次いで、「女性相談支援員による相談支援（51.3%）」、「就労支援（50.9%）」、「シェルター等への一時保護（49.2%）」、と各種支援の充実を求める意見が多く寄せられていることから、周知と支援の両輪を推進していくことが必要である。

「その他」の自由回答

問13：困難な問題を抱える女性への支援のために、郡山市においてどのような施策が有効だと思いますか。	年代	性別	備考
まずは周知徹底	40代	男性	
支援を要するような事態にならないような教育、監修	60代	男性	
女性課設置 支援と付くと行きにくいので	50代	女性	
加害者への対策、支援、カウンセリングなど	50代	女性	
いろんな支援の窓口の総括した相談窓口	60代	女性	
男性や管理職者に対する意識改革の教育が必要	50代	女性	
市議会、県議会議員により解決できることも多い。議員を招いてのシンポジウム開催。	50代	男性	
困難な状況に陥る前に、自分から行動できる人になる為の教育。	40代	女性	
結局一人一人の問題が違う訳で、相談員がどこまでの知識や経験を積んできているのかが大事なのかと。	70代以上	女性	
支援しているところがあることの周知	50代	女性	
必要なし	50代	男性	
時間や場所に制約されない相談窓口の開設	50代	女性	
実態がわからないので、回答が浮かびません	50代	男性	
子供もいる方もいるので児相もあるけど専用の一時的保育施設等	50代	女性	
加害者への更生プログラムと実施機関を作る。	60代	女性	
女性への支援があることの周知が必要	50代	男性	
民間団体と行政の連携	40代	女性	
教育、インフラの支援	20代以下	男性	
学童などの預かり施設の費用の負担軽減や負担軽減の対象の拡充。	30代	男性	
関係機関に相談しても、未だに解決されていなくて、支援も受けられません。これ以上は、何もないです。民間安い賃貸を勧めてくれただけで放置。生活に困難していても、知らんぷり。	40代	女性	
食、住の早急な支援	50代	女性	
状況によって、生活保護給付の迅速化（期間限定、目安3ヶ月）	50代	男性	
世田谷区ではシングルマザー達が話し合える場所をzoomで設けているそうです。友人はモラハラ夫の相談を他の参加者にして自分が我慢していたことに気づけて未婚シングルマザーとしてやっていくことを決断しました。郡山市にもあるのかもしれませんが当事者同士で話せる場もあると良いのかなと感じました。	30代	女性	
街灯を増やしてほしい	20代以下	女性	
このアンケートの意味があるのだろうか、活かしてください	60代	女性	
公的施設の充実、中核市にふさわしい広域入所できる母子生活支援施設の運営	70代以上	女性	
母子福祉センター（ひまわり荘）にシェルター機能を付け母子を保護する。	60代	女性	
経済的支援	30代	女性	
私立高校無償化	30代	女性	
親子バスツアーのようなひとり親支援	50代	女性	

問14 その他、ご意見等があればご自由にお書きください。

1 男女平等について	年代	性別	備考
女性の問題は、昭和？の男女共の育ち方考え方が根深く、頭で男女平等が理解できてたとしても、ほぼ無意識に男尊女卑の考えが常識だと思っていると思う。特に男性に見られると思うが、女性も自然にそうだと思い込んでいる節があるように思います。	60代	女性	
困難な問題を抱える女性への支援、の男性版はあるのですか？両軸で整えるのが本当の人権尊重・男女平等ではないでしょうか。	40代	男性	
女性ばかりとは限らないと思います。逆のケースもあることを知っていただきたいので女性だけでなく男性にも同じような政策があるといいと思います	40代	男性	
色々な分野で活躍している女性たちの声を市政に取り入れるべく、隗より始めましょう。「市議員の半数を女性に」を目標に本気で考えてみては如何でしょう。本来は国会が率先して立法化すべきテーマなのですが。北欧の様に。	70代以上	男性	
男女平等にもかかわらず、女性だけを対象にした支援でいいのか？性別に関係ない支援体制が必要なのではと感じる。	50代	女性	
強い女性もいれば、弱い男性もいる。要は弱者救済が大事では。強気をくじき、弱気を助けを、具体的に展開する必要があると思う。	70代以上	男性	
そもそも、女性だから守られるという前提が間違っていると思います。男性でもDVやモラハラでお困りの方はおりますので、「自力ではどうにもならない人」は普く救済する方向だと良いと思います。また、何一つ努力せず、「養ってもらって当たり前、親がダメになったら他の人に助けてもらいたい」という方が一定数おります。このような方々の中には結婚相談所に登録して、寄生先を探している人もおりますので、結婚相談所とも連携し、自立支援の取り組みをしていくべきだと思います。	40代	男性	
この手の話は差別を助長する。一方で、同様の男性への支援は市としてどう考えているのか。	40代	男性	
これは「女性」のみの法・施策なのでよね。妊娠・出産は女性の身体に起きたことですが、それ以外のほとんどは男性でも困難な場合や守られるべきこともあるでしょう。男女平等だからこそ女性支援を考える時、同時に男性側にとって又男女の別無しの場面でも検討してほしい。	50代	女性	
SDGSでは性別や年齢で区別しない。と言っているのに女性支援新法が施行されたのはどうしてなのか理由を知りたいと思いました。男性でも、性別区別したくない人でも支援必要な方は大勢いると思います。女性に限らず支援必要な人には支援して市民に優しい郡山市を作ってください。	50代	女性	
この女性支援やSDGs等、税金の無駄遣いが指摘されてきてます。郡山市も適正な支出をお願いいたします。支援そのものは賛成ですが、そのお金の用途、助けられる方の国籍等等、厳正な検査を望む次第です。必要な方にお金が行き渡らず、全く関係無い隣国の活動資金になっている実態報告が数多く出てきてます。後、女性に限定するのも今の時代にはそぐわない気がします。困っている方に性別は無いはず。	50代	男性	
「女性支援新法」とありますが、男性でも以前から深刻な状況の方も居ります。男性側の支援はほぼ無い状況です。なぜ、女性だけなのか疑問です。	40代	男性	
女性だけに限った問題でも無い気がします...	50代	男性	
何故女性だけなのか？ 男性でも、苦しんでいる方いるのに これも、平たく言うと差別と偏見なのだが	50代	男性	

女性の支援と言うことだが、女性だけではなく父子世帯などの支援など困難な人は沢山居ると思います。女性に限定せずに困難な方々に手を差し伸べる行政であってほしい。	40代	女性	
女性は結婚したら、基本的には夫が生計維持者・世帯主となり家計を支えるため、婚姻を機に住宅手当などがなくなると会社より言われました。夫は障害年金を受給しており、私が世帯主となっております。家計を支えるために頑張っていきたいのにやはり社会の根本的な男性中心な考え方が抜けきっていないと感じます。女性が活躍できる社会について、特に年配の世代の管理職の方々のお考えが改められることを期待しています。	20代以下	女性	
男女間の賃金格差をなくすこと 困難な問題を抱える女性（子供若年層～高齢者まで）は今後も増加していくと予想されます。社会の背景を検証して生み出されないための根本政策と手厚い財政投入は不可欠です。	70代以上	女性	
法律の趣旨がいまいち把握しにくいですが、「女性だから」起こりうる困難への支援はあっても良いと思います。ただ、女性男性を問わず起こりうる困難であれば、この法律を根拠にした女性だけの支援ではなく、男女共に支援の対象となる事業があると良いと思います。	30代	女性	

2 周知について	年代	性別	備考
深刻な問題で、市で取り組んでいることを存じませんでした	50代	女性	
あまり、認知度が低いと思いますので、これからの課題かと思われます	60代	男性	
全く知らない法律でした。新聞、広報などで困っている方のめにつく様に、広めてサポートしてあげてほしい	50代	女性	
初めて耳にすることばかりで驚きました	40代	女性	
このような、場所があるのが解らなかつた。すみません。この要件をもっとPRしてほしいが私もこのような要件をもっと勉強をしなくてはと思う。	70代以上	男性	
難しい問題ですが身近に問題者がいないと関心が薄いと自覚しています	70代以上	男性	
このような法律ができた事 知りませんでした。国として幼少ときから自分の身は自分で守る教育をすべきと思います。	70代以上	男性	
身近にそのような状況に置かれている女性がいないので自身の関心が薄かったんだなと気づかされました。憲法第14条の通り、平等で尊重し合える社会づくりが必要ですね。	40代	男性	
市政だより、ネット等を通してアピールが必要。	50代	女性	
女性は耐えてしまいがちなので、他から見ると困難な状況でも、軽く考えがちだと思う。結婚等の節目には、仕事、育児、将来を男性よりずっと悩みます。まずは男性、子ども達に、教育？認知させる機会を作っていただきたいです。そして、女性、女の子には、困難を感じるチカラ、違和感が持てるようなチカラを身につける機会を作っていただきたいです。	50代	女性	
スーパーのトイレなどに支援の案内ステッカーが貼ってあるのをみて、とても良い事だと思いました。自分が支援される存在と気がついていない方も多いので、男女ともの教育が必要だと思いました。昭和世代は男尊女卑の意識が強い方が多いので、子供のうちからの意識づけや教育が必要だと思います。また、嫁は使用人ではないので、嫁に関する意識も変わってほしいと思います。	50代	女性	
支援法を初めて知りました。少し気にして過ごします。	40代	男性	
今回初めて知ることばかりでした。もっと幅広く知ってもらうための広報活動など強化してほしいです。	50代	女性	
情報が少なすぎるので、定期的に情報が欲しいです。何も知りませんでした。	30代	女性	
自分が男だから知らないのかもしれないが、相談窓口の周知などは全然足りていないように思う。	50代	男性	
周りにいないのと、あまり広報等でみたことがないので、市の取り組みはほとんどわからなかったが、もっと案内や、活動を載せたらいいのでは、と思いました。	40代	女性	
女性支援新法について存じ上げず気になりましたので、これを機に内容を調べてみようと思いました。	40代	男性	
このモニターに参加してはじめて郡山でこのような支援制度があることを知ったのでもう少し市民の方にわかるよう広報もわけてお知らせを作成することが大事だと思います。	60代	女性	
今回の設問はテレビなどでは見たりします。その他スーパーや公共施設などいろいろな場所のトイレ等で目にしています。しかし身近にその様な問題を抱えてる人が居ないのであまり気にしてませんでした。市のホームページでどの様な事なのか確認をしました。今年度、法が制定され本当に困窮されてる方々が救われる社会になる事を願うと同時に、法の隙間をくぐり悪用しない監視の目も必要に感じます。市のホームページを開いても今ひとつ解りにくさがあるので、助けを求める方が直ぐに目につき、アクセス出来やすくして欲しいと感じました。	70代以上	女性	

詳しくは知りませんでしたが、支援が必要な方には広く知ってほしいと思います。	40代	女性	
こういうイベント（2024こわかフェス）への参加は、情報を広めるのに効果的だと思います。	50代	男性	
公共施設のこども家庭課の案内などのチラシが設置してあると情報が得られやすいように思います。	30代	女性	
自分が困難を抱えていても、それをだれかが助けてくれるのかどうか、気が付けないと思うので、相談の例などを具体的にあげるなど、周知の広報に力をいれてほしい。相談窓口でプライバシーが守られるようにしてほしい。	60代	女性	
周知を徹底した方がよい。本当に困っている人を助けてほしい。安心して生活できる環境作りをしてほしい。	40代	女性	
知らなかったので、こんな動きを知らせてほしい。他の市町村でも動きが生まれてほしい。	70代以上	男性	
広報、LINE、webサイト、それぞれ人によって情報を集める媒体は様々なため、すべての媒体において情報発信すべきだと思います。	30代	男性	

3 相談支援体制について	年代	性別	備考
カテゴリーに分けてしまうと相談がしにくい、又は迷って気軽に相談出来ない雰囲気があります。枠にとらわれない女性支援を目指してほしいなと思います。	40代	女性	
精神的に不安な部分、些細なことでも聞いてくれる所があるといい。	60代	女性	
対処療法ではなく根本要因を深掘りし、関係機関等に横串をさして対応することが重要。	60代	男性	
実態を知らないが、自己責任による所もあると思う。一方で育った家庭環境の影響も大きいと思う。支援の仕組みは必要だが、制度を悪用したり依存的になる人も多いと思うので見極めが必要だと思う。	50代	男性	
女性だけを掲げる支援に少し疑問があります。今は男性も困っている方がいるのでは？そして、支援の窓口の担当者の教育も是非行って欲しいです。折角助けを求めて行っても、横柄な男性や経験浅い方だと悩みをうちあけにくいので、諦めて帰るって事も多々あるのではないのでしょうか？よろしくお願いします。	60代	女性	
自身もこども館に相談に行ったことがあるが、暴力は警察へ、と窓口が分散していて困った。車を所有していないため、警察署にはなかなか出向けず、暴力に帯せて暮らしたことがある。窓口の統一は早急に対応すべき課題	30代	女性	
女性の支援だけでなく、それに伴う子どもの支援、また、男性でも同様に支援が必要なケースもあると思います。誰もが、困っている事を相談出来る窓口になる事を希望します	60代	女性	
悩みに寄り添ってどの様な支援が必要か、相談できる窓口があるということは大変に良い事だと思います。大切な事だと思います。今後も宜しくお願い致します。	70代以上	女性	
困っている人は内に籠もってしまう、助けを求める事がオープンに出来る救援のネットワークを広げなければならないと思う。	60代	女性	
民間団体との連携が必要だと思います また、相談窓口の周知は早急に必要だと思います	60代	不明	
シェルター等、住まいの問題は深刻だと思います。取り組みを強化して欲しいです。	40代	男性	
シェルター等の一時保護施設を早急に整備してほしい	70代以上	女性	
一度生活困窮状態になり、相談に行きました。生活保護申請をと言われ窓口へ申請したいと申出をしましたが、全ての国民は一の憲法説明、口頭で説明したのと同じ資料を渡され、諦めず通って下さいと申請すら受付けて貰えませんでした。明日明後日生きられるか？という限界で窓口に辿り着く人がほとんどではないのでしょうか。死を選ぶしかないのかと諦める人が居なくなる様に、郡山市内は自家用車が無ければ通勤、買い物も難しい地域があるのに認められないのも次の自立への足枷になっていると思います。	50代	女性	
郡山市にもDVシェルターが必要だと思う。郡山市内で以前自立援助ホームを退所し、結婚、出産、育児をされている人を知っているが、旦那さんからDVを受けたり、子どもが虐待を受けたりして困っている方がいる。郡山市内にシェルターを作って母子とも、安心して暮らせるようにすべきだと思う。相談機関ばかり充実させても実際保護、支援しないと話にならないと第三者の視点から感じた。	30代	女性	
市によるシェルターの設置を望みます 市としてできない場合はNPO民間団体と協働し、きちんと予算をとってほしい	60代	女性	

自分は親と絶縁していて、今の配偶者と別れるとなると実家に逃げたりできません。離婚するとなると仕事を辞めたり引っ越したりなど金銭的な問題があります。そういう時に頼ることが出来る機関や方法があるなら助けて欲しいです。自分以外も別れることにかかるコストや身寄りがなく誰にも頼れないので仕方なくDVに耐える人が少なくありません。再就職しようとしても「若い女性は子供を産むだろうから」や「シングルマザーってことはすぐ子供が体調を崩して休むだろう」という偏見で面接に通ることがとても難しいです。どうか助けてください。	30代	女性	
実の親からのDV、元夫、義父からのモラハラで、頼れる人がいない状況です。腰が悪いので仕事を選ぶのが難しいです。精神的にも苦しいですが、相談をしても良くならないのがキツイです。	50代	女性	
種々の機関の情報共有、協力、支援にあたる人員の確保、研修の機会、経済的保障、など シェルターをニイズの変化に対応できるような工夫（保護される方によって必要な支援には差があると感じる） 郡山市で支援され立ち上がる人がいればその分だけ市の発展に繋がるので、このような場を大切にしてほしい。	70代以上	女性	
住宅を借りる時の保証人を知人や身内に頼らなくてもいいように市で保証人になってほしい または、保証人を代わりに引き受ける団体を作ってほしい	60代	女性	
生活困窮者の支援はまだまだだと思います。母子寮は利用者の減少や職員の配置の問題で閉鎖されましたが、まだ元のままの状態であるならDV被害者の一時保護施設やシェルター等に活用できればと思います。迅速な対応をお願いします。	70代以上	女性	
相談窓口は知っているが、解決できるとは思えない。専門家に話して二次被害にあった。傷つき病気が悪化し、同行支援が必要なケース、自死へおいつめられるケース。	60代	女性	
他地域の取り組みを参考にできる事は取り入れて行うべきである。 郡山市も積極的に女性相談支援員による相談支援に力を注ぐべきである。	60代	女性	
知的障害や発達障害を持ちながら、社会生活で困難を感じている女性について、支援学校の情報や地域の相談担当者等連携していく必要はあると考える	60代	女性	
悩みや不安を話せる場所や、信頼できる人間関係をつくれるようなつながりを地域につくっていくこと	70代以上	女性	
自身が元夫の精神的暴力に悩み、住基ブロックをかけようとしたところ、まずは警察への相談が必要と言われ、車がなくて警察へ行けず、相談できなかった	30代	女性	

4 その他について	年代	性別	備考
困難な女性の支援がテーマでしたが、高齢化して、それでも親の介護をしている友人、不安だけれども一人暮らしをせざるを得ない友人など、問題はあります。私もその中の一人です。相談しても解決には至りません。	60代	女性	
自分には関与がないですが、大変な人達はけっこういるのかな、と思うと、自分に出来ることを探して取り組んでいきたいです。	40代	女性	
私自身、離婚を経験してまして、経済的余裕がなく、娘を高校に行かせるとき、大学と、市の寡婦の貸付の制度を利用させていただきました。10年間で返済すればいいので大変助かっております。	40代	女性	
私は以前、生活費をもらえずに子供を連れて離婚しましたが、離婚に応じてもらえず、母子家庭ではなかったため行政からの援助ももらわずに金銭面で大変な思いをしてきました。もっとたくさんの方に様々な支援があることを知ってもらふ必要があると思います。女性もそうですが、1番傷つくのは子供です。虐待などが起きない社会になって欲しいです。	50代	女性	
68才の私、結婚当時、亭主、姑舅の言動は1番で今思うと、どこからがDV何だろうと、今は幸せですが…。	60代	女性	
小中学生の時から知識として教育した方が良いと思います	50代	女性	
困難な問題を抱える女性を、恵まれた環境にいる女性が、陰ながら支援する仕組み	50代	男性	
パワハラ・セクハラは第三者が見えないところで行われる、訴えても、証拠がなければ負けるだけ。根本的に問題を起こす者が、生きている限り無理、無駄。あった事をなかったように「これから起きたら今後は」と発言できる、経営者側の人間がいる限り、無くならない。パワハラ・セクハラは幼少時から、男女隔てなく、公的機関が率先して、きちんとしっかり教育しないと身につかないと思います。	40代	女性	
幼少期、思春期から男性、女性双方が価値観の違いを理解出来るように教育する必要があります。発達段階の差異、身体機能の差異、感受性の違い等を互いに理解できるように専門家が教育すると良いです。男性に対しては思春期になる前までに丁寧に伝えていく必要がありますね。この辺が性ではなく、ジェンダーギャップの根底となるものを保健所なり、専門家が啓蒙する事かと思っています。	50代	男性	
線引きが難しいと思います。税金の無駄遣い。不公平なサービスであると思われます。利用者の具体的な認定、利用サービスの具体化、利用期間の設定が必要だと思います。そもそもなぜ女性である必要があるのか根本的な問題があります。	50代	男性	
母子家庭の医療費が償還払になっているが、そもそも通院してお金を払うことが難しい人は多い。早急に現物給付(窓口での支払いをなくす)べき。お金が払えないから病院に行きたくてもいけないのが現状。加えて、償還払の紙をわざわざ病院にもらいに行き、提出しないと返金されない現状は明らかにおかしい。小豆島の小さな町でさえ、2ヶ月後には自動で、なんの手続きもすることなく返金されていたのに。本当に子育てを応援する気があるなら、広島市や山口県、香川県などのように、現物給付にするべき。オムツ券や温泉券など、高齢者ばかり大切にではなく、未来に投資する市であって欲しいと思う。	40代	女性	
支援法についての講演会を聞きたい	60代	女性	
県内唯一の母子寮が老朽化で無くなり、大規模でなくてもそれに代わる一時的なシェルターは必要かと思う。看護師や保育士が居ればなお良いかと思う。自分がそうと気付かない、切っ掛けがつかめないか、相談へ行くまでの勇気がとても必要な人もあると思うので敷居が高そうな派手な広報は控えた方が良くと思う。	50代	女性	
援助ではなく、自立出来る支援なら賛成です。	50代	女性	
女性は金銭面で男性に劣る事が多く男性から離れにくくなるのでもっと自信を持てるだけの金銭体系で働けると自立しやすくなると思う	50代	女性	

女性であるが故に、抱える困難を受け止め支援を継続してきたのは、民間の支援団体の力が大きい事を前提とさせて頂き下記に述べたい。政府がこの分野に割く予算が余りにも少なすぎる為、2351団体中、常勤（有給）職員が0人の割合が回答者の中では一番多かった。13.6%にものぼっている。また185団体58.4%が「団体の運営上、深刻と思われる問題」について「財政的基盤を安定させるのが難しい」と回答している。（※女性団体の活動、資源に関する包括的実態調査2024年1月24日）以上のことから政府及び自治体は女性支援を行う民間団体に積極的な財政支援を行う必要があると考えます。	40代	女性	
このような、アンケートありがたいです 無職で母一人で介護を抱え込んでいる私には少し希望の光が見えてきたアンケートでした ありがとうございます	40代	女性	
この前電話で相談したが、弁護士さんへの相談はもうまっていると言われた。1ヶ月待つしかないが、もう少し回数を増やしてほしい。	60代	女性	
これからもこのような取り組みを続けて下さればと思います。人権が尊重される社会になりますように。	40代	女性	
どこに相談しても解決策はない	40代	女性	
困難な問題を抱える女性に対する助成金の配布	30代	女性	
女性の自立についてとても関心があります 女性支援新法についてこれから個人的に調べてみようと思います	30代	女性	
10代の望まない妊娠の問題や性に対する知識の乏しさを感じています。（実際にそういう相談があります）ユースクリニックの充実や包括的性教育の取り組みが広がると良いと思いました。	30代	男性	
郡山市主体の 妊娠SOS ユースクリニック 作りたいですね。	50代	女性	
子育ては体力、精神的にもとても大変な中、住民全体で子育てにサポートできる体制が望まれると思う。能力開発をし、自立して働ける支援も必要。でないとパートに就労するしかなく経済困窮者が増える一方。養育費は父親側から強制で取る法律も絶対整える必要。	30代	女性	
福島市、郡山市での差がいろいろありすぎるため、困難な問題を抱える女性への支援を沢山してほしいです。	30代	女性	
派遣社員ですが、子供がインフルや出席停止や手足口病など1週間位休む時に会社を休まないといけない時などのお金の保証がないので収入が減ってしまっていてとても大変です。稼ぎが多いと手当てが少なくなるのもどうかと思います。	30代	女性	
困難を抱える人を支援することはもちろん必要。それと同時に加害者に対する教育や療法も同じくらいに必要。子供の時から人権尊重に関する教育・啓発も行う必要があると考える。	60代	女性	